

情報連絡票

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構  
核燃料サイクル工学研究所

情報連絡票 (第1報) 最終報

1. 件名：プルトニウム燃料第三開発室 管理区域における靴底及び工程室床面からの汚染検出

2. 発生日時： 令和5年3月1日(水) 13時 56分頃

3. 発生場所：【施設名】プルトニウム燃料第三開発室  
【管理区域内 管理区域外】

4. 状況：

別添参照

発信日時： 令和5年3月1日(水) 16時 01分

発信者： (氏名) 内田 伸一 (役職) 危機管理課長

連絡先： 電話番号 029-282-3311 (緊急時対策所)

FAX番号 029-282-4195、029-287-3828

## FAX 送信先リスト (情報連絡票)

文部科学省 研究開発局 原子力課

経済産業省 資源エネルギー庁 原子力政策課

原子力規制庁 事故対処室

原子力規制庁 東海・大洗原子力規制事務所

原子力規制庁 茨城県原子力オフサイトセンター 原子力防災専門官事務室

茨城県 防災・危機管理部 原子力安全対策課

茨城県 防災・危機管理部 防災・危機管理課(夜間休日のみ)

東海村 村民生活部 防災原子力安全課

ひたちなか市 市民生活部 生活安全課

日立市 総務部 防災対策課

那珂市 市民生活部 防災課

常陸太田市 総務部 防災対策課

水戸市 市民協働部 防災・危機管理課

城里町 総務課

大洗町 生活環境課

常陸大宮市 総務部 危機管理課

注) 本送信先リストは、「第1報」にのみ添付する。

## 事象報告シート(C情報)

1. 件名 : プルトニウム燃料第三開発室 管理区域内における靴底及び工程室床面からの汚染検出		
2. 発生日時 : 令和 5年 3月 1日 (水) 13時 56分 (C情報と判断した時間)		
3. 発生場所 <input type="checkbox"/> Pu-1 <input type="checkbox"/> Pu-2 <input checked="" type="checkbox"/> Pu-3 <input type="checkbox"/> PWTF <input type="checkbox"/> 第二 PWSF <input type="checkbox"/> 第三 U 貯 <input type="checkbox"/> その他( ) 【施設】 <input checked="" type="checkbox"/> 使用施設( <input checked="" type="checkbox"/> 政令第 41 条該当・ <input type="checkbox"/> 非該当)・( <input checked="" type="checkbox"/> 管理区域・ <input type="checkbox"/> 非管理区域) <input type="checkbox"/> 一般施設		
4. 警報吹鳴の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 【 <input type="checkbox"/> GB 負圧警報 <input type="checkbox"/> GB 内温度上昇警報 <input type="checkbox"/> $\alpha$ 線用空気モニタ警報 <input type="checkbox"/> 火災警報 <input type="checkbox"/> その他( )】		
5. 状況 : ( <input type="checkbox"/> 運転管理情報、 <input type="checkbox"/> 故障、 <input type="checkbox"/> 漏洩、 <input checked="" type="checkbox"/> 汚染、 <input type="checkbox"/> 被ばく、 <input type="checkbox"/> 人の障害 ) Pu-3 管理区域出口のハンドフットクローズモニタでの汚染検査において作業員 1 名の右足靴底から約 84 Bq (1 スポット) の汚染を検出した (11 時 28 分頃、放管により Pu 確認)。 当事者は、粉末調製室 (1) (FP-101) に入室後、隣室 (FP-102) 及び粉末調製室 (2) (FP-103) を經由後、FP-101 に戻り、グローブ作業の補助を行った。当事者は作業後、自主管理エリア退出時、FP-101 退室時の汚染検査では異常は認められなかった。 当事者を含む同室作業員 8 名と、汚染検出時に廊下にいた 2 名の全身サーベイと鼻スミヤの結果、異常のないことを確認した (12 時 38 分頃)。 その後、当事者の歩行経路に沿って、廊下と FP-101、FP-102 及び FP-103 の汚染検査を行ったところ、FP-101 の床面から約 34 Bq の汚染を確認した (13 時 56 分頃、放管により Pu 確認)。 廊下、FP-102 及び FP-103 の汚染検査の結果、異常はなかった。 FP-101、FP-102 及び FP-103 の $\alpha$ 線用空気モニタに異常はなかった。 <div style="text-align: right;">【添付資料: 一 枚】</div>		
6. 原因 : <input checked="" type="checkbox"/> 調査中・ <input type="checkbox"/> 特定		
7. 放射線等状況 ①環境への影響 : ( <input type="checkbox"/> 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無・ <input type="checkbox"/> 調査中 ) ②その他		
8. 被ばくの有無 : ( <input type="checkbox"/> 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無・ <input type="checkbox"/> 調査中 )		
9. 人身災害の有無 : ( <input type="checkbox"/> 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無・ <input type="checkbox"/> 調査中 )		
10. 処置対策 原因調査の結果を待って対処する。		
情報区分	情報区分	C 情報
	判断根拠	作業員の靴底及び歩行経路上の床から限定された軽微な汚染が発見されたため。
担当課 :		課長の内線 : 77001
発信日時 : 令和 5年 3月 1日 (水)		発信者 : 計画管理課長 水津祐一
電話番号 ( 029 - 282 - 3320 )		FAX 番号 ( 029 - 282 - 3326 )

## プルトニウム燃料第三開発室 (Pu-3) の施設概要

施設名	プルトニウム燃料第三開発室 (Pu-3)
許可区分	核燃料物質使用施設
主に取り扱う核燃料物質	天然ウラン、劣化ウラン、濃縮ウラン及びその化合物、プルトニウム及びその化合物ほか
許可取得日	昭和 56 年 11 月 10 日 (56 安(核規)第 494 号)
廃止措置期間 (予定)	—
備考	—

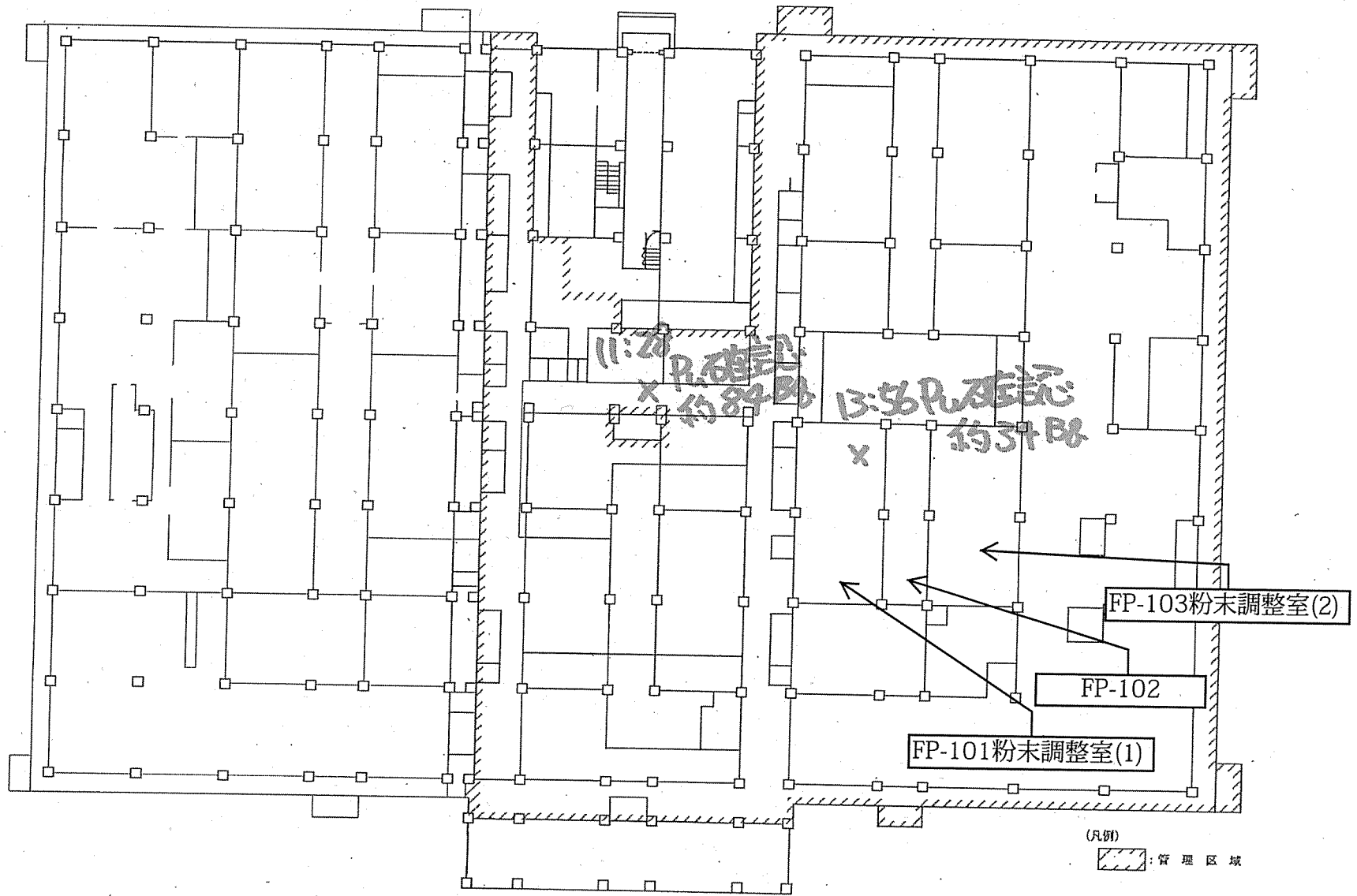
プルトニウム燃料第三開発室は、工学規模での MOX 燃料製造及びその関連技術の開発を行う施設として 1988 年 (昭和 63 年) に建設された施設で、これまで高速増殖原型炉「もんじゅ」用及び高速実験炉「常陽」用の MOX 燃料製造並びにそれに伴う技術開発を行ってきた。建家は海岸から約 700m 離れた海拔約 27m の小丘上の平坦部に位置し、鉄筋鉄骨コンクリート耐火構造で、FBR 棟、ATR 棟、共通棟及び管理棟で構成されている。

管理区域内にはプルトニウム等の核燃料物質を非密封で取り扱うためのグローブボックス及びフードが設置されており、核燃料物質を非密封で取扱う設備・機器はグローブボックス又はフードの中に設置されている。管理区域及びグローブボックスは、換気設備により外気に対し内部を負圧に管理し、核燃料物質を閉じ込める設計である。分析工程等を除く主要な工程は、臨界管理の観点から水分量を制限した乾式プロセスを採用しており、工程設備は被ばく対策として遠隔自動化が図られている。



**核燃料サイクル工学研究所 施設配置図**

9



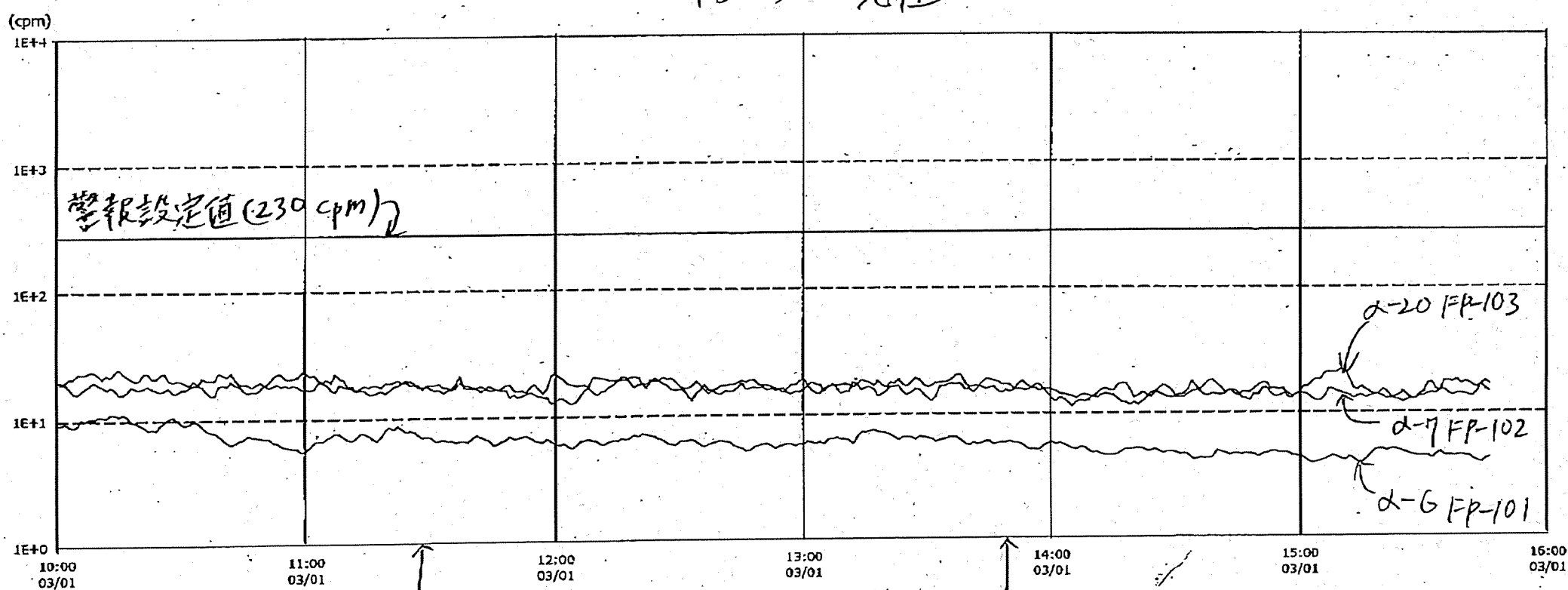
プルトニウム燃料第三開発室 1階平面図

# 定置式モニタトレンドグラフ

プルトニウム燃料第三開発室

α線用空気モニタ

15:30 現在



↑  
事象発生  
(11:28)

↑  
FP-101 桶汚染確認  
(13:56)